

H25地域政策研究センター地域協働研究（教員提案型・前期）採択課題一覧表 【研究期間：H25年5月～H26年3月】

	研究課題名	研究の概要	研究代表者			研究区分	研究スタンス	研究分野	研究フィールド	研究協力者
			所属	職	氏名					
1	地域観光クラウドのサービスモデルと観光振興に関する研究	①解決を目指す課題(何を解決するのか) 悲願であった平泉世界遺産登録は実現されたが、東日本大震災以降、岩手の観光産業は平泉など一部の地域を除き苦戦している。平泉効果の全県波及や周遊型観光を推進するうえで、ICTを用いた情報発信の充実が課題となっている。 ②実施方法・取組みの概要 本研究では、社会情報システム学講座(阿部研究室)が平泉町他、県内5団体との共同研究で開発・導入(一部試行)した「観光情報配信プラットフォーム」の運用および導入事例の拡大を通じて、導入ニーズ分析、クラウド運用支援、事業モデルの在り方について検討を行い、持続可能な地域観光クラウドのサービスモデルの事業化の可能性と効果について明らかにすることを目的とする。	ソフトウェア情報学部	教授	阿部昭博	一般課題	研究成果実装	産業経済分野	平泉町、奥州市、北上市、岩手町、盛岡市、一戸町ほか、沿岸にも順次拡大予定	平泉町観光商工課、歴史公園えさし藤原の郷、北上みちのく民俗村、岩手町立石神の丘美術館、志波城古代公園(盛岡市歴史文化課)、一戸町観光商工係、社会情報システム学講座学生
2	救急外来問診票からのトリアージ支援情報の獲得	①解決を目指す課題(何を解決するのか) 地域医療の中核となる病院において喫緊の課題であるトリアージの実施を、ICTを活用して支援する。具体的には、従来の救急外来時の受付票(救急外来問診票)を分析し、そこから得られる傾向などを情報として抽出・提示することでトリアージ実施・改善を支援する。 ②実施方法・取組みの概要 救急外来データ収集、データ分析による情報抽出、処理結果の評価・活用の3段階を繰り返す形で実施する。データ収集は協力者である病院側から救急外来問診票を提供してもらう。これを研究者側で入力し、単純集計、クロス集計、決定木などのデータマイニング手法などを適用し、分析を行う。この分析結果を病院側に提示することで、トリアージ実施の改善に役立ててもらう。	ソフトウェア情報学部	准教授	樽松理樹	一般課題	課題解決型	医療・看護・福祉	一関市および近隣市町村	岩手県立磐井病院・循環器科副院長心得・中村紳、同病院・看護師・佐藤加代子
3	難病患者の災害時支援及び防災対策に関する研究	① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 難病患者の生活実態や東日本大震災時の状況は調査の必要性が言われながら把握不十分である。そこで平成23年度に岩手県難病・疾病団体連絡協議会と協働で、難病患者に対してアンケート調査を実施し、生活や災害時の課題を明確化した。しかし時間の経過により新たな課題が生じたり、患者の災害への備えがその後どう変化したかは把握できていない。そこで、難病患者に対する今後の防災対策の一助となるよう、岩手県難病連と協働で再び調査を行う。 ② 実施方法・取組みの概要 岩手県内の特定疾患医療費受給者のうちランダムに抽出した4,000名に対し、自記式の調査用紙を郵送にて発送・回収する。また震災時の状況について、3疾患群各3名にインタビューを行う。得られた結果は保健所や市町村担当課などの関係団体及び患者・家族に周知する他、難病支援対策の一助となるよう、関連する研究団体からも助言を得て提言としてまとめる。	看護学部	助手	藤村 史穂子	震災復興	可視化・構造化	社会・生活基盤分野	岩手県内全域	葉健一(岩手県ベーターチャット病友の会)、常任理事・中村康夫(岩手ミトコンドリア病友の会代表)、常任理事・小野寺寛子(岩手県重症筋無力症友の会代表)、理事・駒場恒雄(日本筋ジストロフィー協会岩手県支部長) 【岩手県難病相談・支援センター】難病相談支援員・矢野々京子(岩手県難病連副代表理事、日本でんかん協会岩手県支部)、難病相談支援員・根田豊子 【岩手県保健福祉部健康国保課】 【厚生労働科学研究費補助金「希少性難病疾患患者に関する医療の向上及び患者の支援のあり方に関する研究」班】災害対策プロジェクトリーダー・溝口功一(国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター副院長)、研究班員・千田圭二(国立病院機構岩手病院副院長)、研究班協力班員・野原正平(静岡県難病連相談役)
5	被災地従業員のメンタルヘルス支援による産業経済の再建	1. 解決を目指す課題 被災地の職場では、①従業員が被災者であること②被災に関わる産業の危機③復興のための過重労働という三点から従業員のメンタルヘルスの悪化が見られる。被災地の産業経済の復興という観点からも対応が求められている。 2. 実施方法・取組みの概要 平成23年度平成24年度に、同じテーマで「課題解決型研究」を実施してきた。宮古地区の地域特性を踏まえコネクタ・金型産業等の製造業を対象とする。実施方法は、メンタルヘルス健診を実施し、その結果をフィードバックするプロセスの中でデータを収集する。その結果を分析することにより、被災地の産業経済の再建に資するメンタルヘルスの観点からの提言を行う。これまでの取り組みから、被災地の産業現場におけるメンタルヘルス対策の課題が明らかとなった。第一に、被災により加速された過疎化高齢化による若年労働者の減少であり、第二に、指導的立場の社員の養成である。平成25年度の取り組みとしては、メンタルヘルス健診を継続実施し、その結果に基づいて①労働者への個別指導、つまり「セルフケア」と、②管理監督者研修などの事業場全体のケアにとりくむ。さらに、職場のメンタルヘルスの観点から、震災復興に関わる課題の発見とその分析を深める。今後の本研究継続への期待がコネクタ・金型産業側からも強い。	社会福祉学部	教授	青木慎一郎	震災復興	課題解決型	産業経済分野	宮古市、山田町	宮古・下閉伊コネクタ・金型研究会・事務局長・安藤充、岩手県予防医学協会健康推進部健康推進課・健康推進係長・阿部千恵子
6	勤務所属施設をもたないベテラン看護師の被災地住民への健康支援とそのプロセスに関する研究	平成24年度の地域協働研究の助成にて研究を展開してきたが、そのプロセスを発展させる形で取り組むものである。 ①解決を目指す課題(何を解決するのか) 平成24年度、勤務所属施設をもたないベテラン看護師が被災地のみなし仮設住宅の生活指導員とともに、住民個々の健康状況に応じた支援内容のランクづけを担当してきた。本研究課題では、この支援内容のランクづけを勤務所属施設をもたないベテラン看護師が、いかにして実際の支援活動へと形作っていくか、そのプロセスを含め、明らかにする。 ② 実施方法・取組みの概要 勤務所属施設をもたないベテラン看護師が生活指導員等と共に共同して活動する様子についての参加観察、およびベテラン看護師等を対象にした面接調査を行う。	看護学部	教授	三浦まゆみ	震災復興	課題解決型	暮らし分野	大槌町	盛岡でしこ代表・佐々木典子
7	情報タイムカプセルを利用した持続可能な津波資料館の構築	①解決を目指す課題(何を解決するのか) 本研究課題では、東日本大震災における津波の惨事を繰り返さないため、世代で継承されるべき災害情報の提供を目的とする。今回の被災情報をできるだけ後世に伝えるため、数十年後も人々が忘れずに訪れ、子孫に伝えることを視野にいれた津波資料館をインターネット上に構築する。 ②実施方法・取組みの概要 今回の惨事の脅威の情報を持続的に伝える策として、被災者の経験を情報タイムカプセルとして数十年後に残すことを検討する。まずは、どのような形の情報を数十年後に残すか、その維持管理等の手法を検討し、情報収集を行い、実装する。	ソフトウェア情報学部	教授	村山優子	震災復興	課題解決型	社会・生活基盤分野	田野畑村	岩手大学教授(特任)・越野修三(3月末まで、岩手県総合防災室主任防災指導員)、建築設計士・大村一彦
8	三陸復興国立公園及び東北海岸トレイルの漁船等を活用した多面的な利用推進に関する研究	①解決を目指す課題(何を解決するのか) 本年5月に新しく指定される三陸復興国立公園及び東北海岸トレイルの利用については未知な部分が多く、地元でも対応が鈍い。震災復興のためにはこれらの新しいツールを効果的に利用し交流人口を増やす必要がある。 ②実施方法・取組みの概要 単なる歩道の利用ではなく、漁船などを利用した多様な活用方法を開発し、実際にモデルツアーを実施し効果を測定する。	総合政策学部	教授	渋谷晃太郎	震災復興	課題解決型	産業経済分野	釜石市鶴住居、根浜地域	三陸ひとつなぎ自然学校代表・伊藤聡、マネージャー・相崎未来
9	非常時用車いす移乗ツールに関する試作・評価研究	①解決を目指す課題(何を解決するのか) 十分なバリアフリーが考えられていない環境下で、車いす利用者が便座などへの移乗や床面から車いすへの移乗を行う際のサポート(段差解消)を行う機器の試作・評価を行う。これにより、非常時でも自立した移動や活動が可能になるものと考えられる。 ②実施方法・取組みの概要 ニーズ調査及び評価結果を基に、既存の素材を活用して、現時点で可能な範囲で改良を施した機器を試作する。さらに、これらを評価することで必要な仕様を決定し、製品化への可能性を検討する。	社会福祉学部	教授	米本清	一般課題	課題解決型	暮らし分野	本学、盛岡市、花巻市	いわてリハビリテーションセンター・主任作業療法士・鷹薮悦子

H25地域政策研究センター地域協働研究（教員提案型・前期）採択課題一覧表 【研究期間：H25年5月～H26年3月】

研究課題名	研究の概要	研究代表者			研究区分	研究スタンス	研究分野	研究フィールド	研究協力者
		所属	職	氏名					
10 頭部および視線追尾システムを利用した肢体不自由者のための安価なコミュニケーション支援ツールの開発	①解決を目指す課題(何を解決するのか) 先天性の障害による肢体不自由者、または震災によって肢体が不自由になった者の不自由な生活を解消するために、頭部または目のみの操作で、パソコンによるマウス操作や文字入力、または入力した文字の発話を行う機器の開発 ②実施方法・取組みの概要 標準的なパソコンに搭載されたWebカメラを用いて、被験者の顔の特徴(目・鼻・口)を瞬時に検出し、その特徴の相対的な位置をもとに、被験者の頭部の3Dモデルを擬似的に構築する。当該3DモデルはMean-Shift法により、頭部の動きに連動させることができ、その角度の変化をパソコンのマウスポインターに変換することによって、頭部を動かすだけで、一般的なパソコンの操作が行える。 さらに、3Dモデルから目の領域を追尾し、眼球の中心の位置情報をマウスポインターに変換することによって、目を動かすだけで、パソコンの簡単な操作を行うことができる。ここでいうパソコンの操作は、マウス操作や文字入力、または入力した文字の発話を想定している。	ソフトウェア情報学部	准教授	プリマ・オキ・ディッキ	一般課題	研究成果実装	医療・看護・福祉	盛岡市、雫石町	NPO法人ICT救助隊
11 脳卒中等生活習慣病予防に向けた保健介入プログラムの開発	① 解決を目指す課題(何を解決するのか) ・岩手県内の脳卒中等生活習慣病対策の現状と課題を明らかにする。 ・脳卒中等生活習慣病予防に効果的な保健指導事業と評価方法を開発する。 ② 実施方法・取組みの概要 ・脳卒中等生活習慣病予防対策検討会の開催 ・実態調査(岩手県内市町村の脳卒中等生活習慣病予防対策の現状と課題) ・脳卒中等生活習慣病予防のEBMの活用を促進する研修会の開催	看護学部	講師	松川久美子	一般課題	課題解決型	医療・看護・福祉	県内市町村	盛岡市・保健師長・小笠原厚子、軽米町・地域包括センター長・中里早苗、滝沢村・総括主査兼総括保健師・熊谷多美子、花巻市・主査(保健師)・久保田和子、岩手町・主任保健師・畠山茜、菅代村・保健師長・長根真奈子、岩手県国民健康保険団体連合会・保健事業専門員(保健師)・佐々木みや子、県担当者(予定)／岩手県環境保健研究センター・専門研究員(保健師)
12 東日本大震災被災地域住民のこころの健康に関する研究 ―釜石市健康調査の分析による被災後の市民の精神的健康の実態把握―	① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 東日本大震災では、多くの人命が失われ、多くの家屋が流出し、地域自体が流されて、人々は見慣れた故郷を失った。これらの被害は目に見える損失だけではなく、人々のこころに大きな影響を及ぼした。東日本大震災は被災地の人々にとって命の危険をまざまざと感じさせたトラウマティック・ストレスであり、その影響としてはposttraumatic stress disorder(PTSD)があげられる。しかし、トラウマ被害後の影響は必ずしもPTSDに代表される精神障害だけでない。近親者との死別による悲嘆や、仮設住宅への居住によるストレス、地域社会の変化によるストレス、仕事が見つからないことによるストレスなど、その影響は多岐にわたる。そこで、本研究では東日本大震災が人々のメンタルヘルスに及ぼした影響を、岩手県釜石市に居住する全市民を対象として、トラウマティック・ストレス、近親者との死別による悲嘆、抑うつ、日常生活のストレス、行動の変化といった観点から明らかにする健康調査を昨年度に引き続き実施し、昨年度との比較を通して適切な支援について提案をする。 ② 実施方法・取組みの概要 釜石市保健福祉部健康推進課との共同研究契約に基づき実施する。本研究の実施計画は中谷・山田・桐田と釜石市で立案し、調査は釜石市が行い、分析は本学が担当する。	社会福祉学部	准教授	中谷敬明	震災復興	課題解決型	社会・生活基盤分野	釜石市	釜石市
13 外国人散在地域における在住外国人の対人ネットワークと居場所感に関する研究	①解決を目指す課題(何を解決するのか) 外国人散在居住地域における外国人の対人ネットワークと地域での居場所感とを把握するとともに、地域の一人としての居場所感をもつ阻害要因を把握することにより、今後の支援のあり方を、対人ネットワークの特徴に即して検討する。 ②実施方法・取組みの概要 岩手県奥州市在住の外国籍住民を対象に、対人ネットワークおよびソーシャルサポート、地域での居場所感に関する質問紙調査を行う。また、日本語教室や外国人母親の子育てサークルなどの機会を利用して、面接調査を実施する。	社会福祉学部	准教授	細越久美子	一般課題	課題解決型	地域社会・コミュニティ・文化	奥州市	公益財団法人岩手県国際交流協会・次長・宮順子
14 漁協の担い手(漁船漁業・養殖業)育成に関する研究	①解決を目指す課題(何を解決するのか) 震災によって担い手の減少がさらに進む状況における担い手の育成条件を解決する。 ②実施方法・取組みの概要 震災による地域の状況による担い手育成の比較を行う。これに加えて、漁船漁業・養殖業による比較を行う。これらを踏まえて漁協の復旧段階による担い手育成に関する維持管理・運営に必要な条件を提示する。	総合政策学部	講師	新田義修	震災復興	課題解決型	産業経済分野	宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市	岩手県沿岸広域振興局、全国漁業協同組合連合会、岩手県漁業協同組合連合会、単協
15 北上産黒大豆「黒千石」の栄養機能性と加工食品への応用に関する研究	①解決を目指す課題 平成24年度地政研研究費助成により、極小粒黒大豆「黒千石」の栄養価、栄養機能性、調理特性等に関する基礎的検討を行い、ポリフェノール含有量が黒大豆の中でも高く、動物実験では抗酸化能に関与している可能性が示唆された。また、独特の調理特性を有する事が明らかになり、クッキーへの応用も試みられた。これらの結果を踏まえて次年度は、さらに「黒千石」と抗酸化能との関連を追究するとともに、パンやスポンジケーキへ利用拡大を試みる。また、大豆消費と健康との関連を人の食生活から検討し、これらを総合して「黒千石」の価値を探り、生産組合における生産量の増加及び販路拡大の一助を担うべく取り組む。 ②実施方法・取組みの概要 平成24年度に準じて実施する。すなわち「黒千石」の栄養価、栄養機能性については動物実験により進め、さらに物性試験及び官能検査等により調理特性や加工食品への応用について明らかにする。	盛岡短期大学部	教授	千葉啓子	一般課題	課題解決型	環境・資源・生活科学	北上市	北上南部大豆生産組合・組合長・千田順
16 HF帯を活用した被災者情報伝送システムの開発	携帯電話網、MAD-SSネットワーク網を多重的に利用し、災害情報及び位置情報の管理・表示システムを構築する。MAD-SSネットワーク網は、車両動態管理システム(AVM)のFOMA網の利用とは異なり、電源さえも完全に自立的に動作するセンサネットワークである。そのため、大規模災害での停電時でさえも、確実に災害情報及び位置情報を交換することが可能になる。また、複数の受信局をHF帯のMAD-SS網でつなぐことで、広域での災害情報及び位置情報の管理が可能になる。この事によって、どのような状況下でも現場指揮と司令、対策本部間で情報交換、共有が可能になり、厳しい限られた状況下で適切な判断行動が可能になる	ソフトウェア情報学部	講師	瀬川典久	震災復興	課題解決型	社会・生活基盤分野	久慈市、盛岡市	岩手医科大学秋富先生